Scylla no more exists than does the Chimera.

－「クジラの公式」の起源を ‘ou mallon’から読み解く－

明日 誠一（Seiichi Myoga）
青山学院大学（非常勤）

「クジラの公式」は，日本で大学受験向けの勉強をした人であれば誰もが知ると言ってよい構文である一方，解明されていない謎が多く残る構文でもある。

(1a)が「クジラの公式」で，その意味は(1b)のようなものであると理解されている。

(1) a. A whale is no more a fish than a horse is (a fish).

b. クジラは，馬と同様，魚ではない。

最初にこの構文を紹介したのは，私の知る限り齋藤秀三郎(1866-1929)である。斎藤自身は(1a)を(2)のようにパラフレーズしている。

(2) A whale is not a fish, just as a horse is not a fish. (齋藤 1989:315)

just as は,「クジラの公式」がアナロジーを表す構文の一種であることを示している。(1a)から(便宜的に)no more と than を取り除くと，A whale is a fish.と A horse is a fish.という二つの命題が得られるが，「クジラの公式」を簡単に説明すれば，クジラも馬も共に「魚である」ことが否定される，つまり，二つの命題は(述部が)否定される点で類似していることを述べる構文である(主語に「存在の前提」がある場合，述部否定は文否定になる)。

私見では，「クジラの公式」には，アナロジーの弱いタイプと強いタイプの二つに分類できる(19 世紀以前の引用については初版年を参考までに出典の末尾に付す)。

(3) a. “Do you really mean, then” exclaim nearly all people who are not naturalists, “that a whale is not a huge fish?” Certainly I do! A whale is no more a fish than crocodiles, penguins, or seals, are fishes, although they too live chiefly in the water.

(*The Popular Science Monthly*, vol. 22 1882)

b. Nevertheless, the black hole is no more sucking you in than is the pool at the bottom of a waterfall. You go over a waterfall because that is the way the river around you is flowing, and you fall into a black hole because you are carried along with the space around you; there’s no cosmic vacuum cleaner that is sucking you in.

(J. Bennet, *What Is Relativity?*)

両者の決定的な違いは，従節の命題(q)の扱いにある。「クジラの公式」が正しく機能する(つまり，主節の命題(p)が否定に解釈される)ためには，q が偽であることを聞き手が受け入れることが必要であるが，(3b)と違って，アナロジーの弱い(3a)では，q がなぜ偽となるのか話し手は説明をしていない。

q が偽であることを聞き手が受け入れるならば，「クジラの公式」は，「p ならば q。q でない」を情報として聞き手に与えることになるので，後件否定(modus tollens)により，「p でない」という結論を導く。ところが，聞き手がむしろ p が真であると理解する場

合には，「*p* ならば *q*。*p* である」という前件肯定(modus ponens)で解釈するので，話し手の期待とは正反対の「*q* である」という結論を聞き手が導くことになる(弱いアナロジーの「クジラの公式」は，One man's *modus ponens* is another man's *modus tollens*. の一例となり得る)。

(4) a. "She is no more a witch than you are." "Now you call me a witch. See what she has worked on you!" (D. Burgess, *An Unclean Act*)

b. "Do not say such things, Anne Putnum! Betty is no more a witch than I am!" "And who is to know that you are not?" Anne's thin voice was sharp.

(P. Clapp, *Witches' Children*)

弱いアナロジーのタイプで最も古い例は，私の知る限り，Shakespeare の十二夜(初版 1623 年)に現れる(5)である。

(5) I am no more mad than you are; make the trial of it in any constant question.

more を使った比較級は迂言形なので，「クジラの公式」の用法は海外から「輸入」されたものと推定される。しかし，程度を比較するという本来の用法を保持しつつも，「クジラの公式」に特有の「命題(が真である程度)を比較する」読みがどこから生じたのかは謎のままだった。

(6) 'I'm no more mad than you are,' said Robert angrily, 'perhaps not so much – only, I was an idiot to think you'd understand anything. Let me go – I haven't done anything to you.' (E. Nesbit, *Five Children and It*)

すると，Shakespeare からさらに 2,000 年近く遡る古代ギリシャの Pyrrhon に始まる懐疑派が議論に用いた'ou mallon (no more)'にたどり着く。

同一の事物が持つ特質が，*F* なのか，それとも正反対の not-*F* なのかを比較することから，「'Something is not-F'と言える以上に'Something is F'とは言えない」，つまり，二つの命題は拮抗しているという解釈が生じる。命題という点を考慮すれば，「拮抗している」というのは，'true to the same degree'であると考えるのが妥当である。

(7) Something is no more *F* than not-*F*.

懐疑派は，(7)をどちらの命題を是とすべきか分からないと「判断を保留」する意味で理解するが，ここで注目すべきは，「人間は万物の尺度である」で知られる Protagoras と Democritus の解釈の違いである。Protagoras は(8)を(9a)の肯定の意味で解釈するのに対して，Democritus は(8)を(9b)の否定の意味で解釈する。

(8) Honey is no more sweet than bitter.

(9) a. Honey is both sweet and bitter.

b. Honey is neither sweet nor bitter.

この解釈の違いが「文脈」をもとに語られることはなかったが，前件肯定と後件否定を念頭に置くと，両者の解釈の違いが生じた理由を「言語学的」に説明できる。

また，同時に，(7)を想定すると，「クジラの公式」が「命題(が真である程度)を比較する」読み獲得した理由を「語法・文法的」に説明することが可能となる。

参考文献

齋藤秀三郎. 1989. *Practical English Grammar*, vol. III. 東京：興文社.